

## ナンブコムギの冬期播種栽培における病害・雑草防除

### 【1 成果概要】

ナンブコムギの冬期播種栽培において、病害防除の時期は秋播栽培と同様に開花期とその7日後の2回防除が適当です。雑草防除は越冬後の茎葉処理剤1回で対応可能です。

### 【2 効果】

- (1) ナンブコムギは、冬期播種栽培においても赤さび病と赤かび病が発生し、病害防除は主にこれらの病害を対象に行います。この場合、開花期とその7日後の2回防除で高い防除効果が得られます(図1)。
- (2) 冬期播種栽培では越冬前の雑草発生がないことから、越冬前の除草剤散布は不要です。また、越冬後の茎葉処理剤1回散布で残草量は有意に減少し、秋播栽培とほぼ同等の残草量に抑えることができます(表1)。
- (3) 農薬の総使用回数は、冬期播種栽培が4回(種子消毒1回、越冬後病害防除2回、雑草防除1回)、秋播栽培が6回(種子消毒1回、雪腐病防除1回、越冬後病害防除2回、雑草防除2回)と、冬期播種栽培が少なくなります。

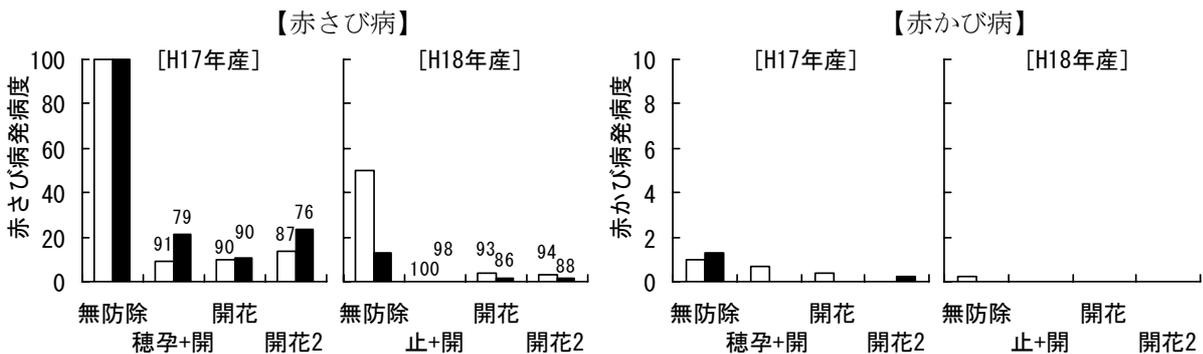


図1 栽培法による防除時期別の各種病害発生程度の比較(ナンブコムギ)

□: 冬期播種(棒グラフ左)、■: 秋播(棒グラフ右)。図中の数値は防除値。穂孕+開: 穂孕期と開花期の2回防除、止+開: 止葉抽出期と開花期の2回防除、開花: 開花盛期に1回防除、開花2: 開花始めから開花揃いにかけての開花期とその7日後の2回防除。

表1 冬期播種栽培と秋播栽培における残草量の圃場別比較(H18年産)

| 圃場種類 | 栽培法              | 雑草乾物重 (g/m <sup>2</sup> ) |      |     |
|------|------------------|---------------------------|------|-----|
|      |                  | イネ科                       | 非イネ科 | 合計  |
| 普通畑  | 冬期 <sup>1)</sup> | 0.2                       | 0.2  | 0.4 |
|      | 秋播 <sup>2)</sup> | 0.1                       | 0.6  | 0.7 |
| 転換畑  | 冬期 <sup>1)</sup> | 1.6                       | 0.5  | 2.1 |
|      | 秋播 <sup>2)</sup> | 0.6                       | 0.8  | 1.4 |
| 分散分析 | 圃場               | NS                        | NS   | *   |
|      | 栽培法              | NS                        | NS   | NS  |

1): 冬期播種栽培はチフェンスルフロンメチル水和剤の1回処理(5月上旬に雑草茎葉散布)。2): 秋播栽培はジフルフェニカン・トリフルラリン乳剤(播種直後に全面土壌散布)およびチフェンスルフロンメチル水和剤(4月中旬に雑草茎葉散布)の2回処理。残草量(雑草乾物重)の調査は6月14日に調査した。\*, NSは、それぞれ5%水準で有意、有意でないことを示す。

### 【3 この技術を上手に使うには】

栽培条件は岩手県畑作物指導指針(平成18年度)に準じ、種子消毒、各種病害防除、雑草防除は、農薬使用基準に従い実施してください。

### 【4 技術の適用場面】

作付体系として水稻後や大豆後に小麦を取り入れている地域で、冬期播種栽培をする場合に役に立ちます。